

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム和が家 ななかまど	評価実施年月日	平成22年2月15日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年2月18日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	開設当初からある理念を見直し、住み慣れた地域で安心した暮らしを、およびご家族も安心できる支援を柱に和が家の理念を作り上げた。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	全体会議やユニット会議など支援の状況を振り返りながら理念に沿った話し合いを行っている。話し合った結果を理念にケアに反映させるよう実施している。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホームページ、和が家新聞などの活用により地域の方々の理解が得られるよう取り組んでいる。また地域の喫茶店、美容室、商店などの協力が得られるよう直接話し合いなど行っている。さらに運営推進会議においては町内会関係者、民生委員、地域障害者施設関係者、社会福祉協議会さらに地域公共機関の関係者などに参加いただき、和が家の理念が地域に理解されるよう進めている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域の行事に利用者とともに参加し、地域の人とのかかわりを多くしている。また施設への隣近所の人々が立ち寄れるよう庭の整備をするなど環境整備にも努力してきた。さらに、花壇の整備、除雪、屋根の雪下ろしなど近所の方々の協力を得ながら行っている。近隣の人との気軽に挨拶が出来ている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の敬老会や町内まつりに参加している。地域のかたがたの見学なども多く交流もある。町内のボランティアの方もこられている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域研修会などに参加し、意見交換を行うとともに、地域の商工会、地区センターの役員、町内会およびみこしの会役員などを受け持ちながら和が家と地域の交流を図り地域への貢献を行っている。地域での高齢者の生活相談をうけたり、また包括支援センターと連絡を取りながら地域の認知症高齢者の支援も行ってきた。また、近隣のグループホームとの連携も深めるよう行動している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	カンファレンスや面会時など随時伺っている。目安箱も設置している。苦情は上司に報告し運営会議、全体会議等で検討・報告している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	「和が家新聞」を毎月発行している。入居者の様子がわかる写真、コメントを掲載している。担当スタッフや新人職員の紹介なども掲載している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会が設置されており、家族会独自の活動が行われている。家族会としての意見について話し合う場面を設置している。また個々の家族との話し合いも現場スタッフだけでなく管理者あるいは施設経営者とも行うようにしている。苦情との対応を記録している。話し合いの内容は、運営会議、全体会議で報告され具体的な運営方針を決めている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月行う全体会議、ユニット会議で業務などの意見提案がなされている。運営会議等で検討し、その内容に関して全体会議への報告を行い再確認を行っている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	あらかじめ判明しているときは、それに合わせて勤務配置を行っている。突発的な場合は都度職員間で連絡を取りながら、協力しながら対応できている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	日常的にユニット間の交流を深めるようにしている。職員の移動に関しては混乱等がおきないような体制をとっている。日々の申し送りも2ユニット共同で行うようにし、他ユニットの状況も理解できるようにしている。離職があった際は、当分の間は他職員一緒に行動させるなど入居者へのダメージ・混乱が発生しないように努めている。ご家族からは担当職員が変更(担当交代、退職など)に関して要望が出ることがある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>新人研修、職員研修の年間の研修計画を作成している。研修後は報告会を行い研修内容の他職員への周知も行っている。事業所外の研修に関しては掲示板に提示するとともに計画的に全職員が参加できるよう勤務調整を行うなど対応している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>近隣の他グループホームとの相互訪問、意見交換を行っている。現在は勉強会の共同開催など計画している。また複数事業所連携研修会においては他事業所との交流を深めるとともにその運営などに関しても積極的に参加している。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>個別面談を定期的に行っている。また個々の相談も直接経営者などとも行える体制がある。さらに親睦会の運営に関してもよりよいものになるよう取り組まれている。定期的に休憩が取れるようになっており、休憩室あるいは喫煙室も設置されている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>個人面談などがこまめに行われている。職員の要望などが比較的早く取り上げられている。ユニット会議、運営会議など打ち合わせが適宜行われている。研修やケアの方向性などについての話し合いも多くもたれるようになっている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>できるだけご本人に面会し、困っていること、要望を聞くように勤めている。また事業所の見学なども含め、サービスについて丁寧に説明するようにしている。しかし、入居段階より入居後の方が困っていることなど判明することが多いため、継続して要望等を聞くようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>訪問時、電話などの相談に応じ、ご家族からの不安・要望を受け止めるように対応してきた。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居予定者およびご家族と時間をかけて話し合いをよくおこない、了解の下、以前利用していた介護事業所、医療機関などからの情報取得もを行っている。時には、利用サービスの変更なども提案してきたりしている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	可能な限り、ご本人の事前訪問、見学をお願いしている。また、今までの事業所ケアマネージャー、職員などの協力も得られるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	畑の野菜の作り方を教えてもらったり、編み物を教えてもらい職員も一緒に毛糸や針を買いに出かけたり、学ばさせていただいている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者の介護に当たり、かならずご家族の意見を反映させるようにしている。ケアカンファレンスへの出席もしていただくようにし、ご家族からの情報、提案も生かせるようにしている。モニタリングの時もご家族に同席していただくこともある。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	事業所行事にできるだけ参加していただくとともに、ご本人の日常の生活状況をご家族が随時把握できるよう毎月の新聞などをふくめ情報提供を行っている。受診の際のご家族同行をお願いしたり、自宅への帰省など家族間の関係が希薄にならないよう配慮している。また、なかなか来られないご家族にはFAXや手紙を出したりしている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	美容室や墓参り、年末年始はご自宅への帰省などを可能な限り進め、なじみの関係が途切れないように努力している。毎年行く公園などにも必ず行き楽しんでもらっている。また、外出などに関しても、昔の職場関係、よく買い物にいった場所など関連した場所を確認しながら行うようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者が共同で活動する場面では、利用者一人一人が孤立することがないように職員もかかわるようにしている。意思疎通ができるようになり、入居者同士の支え合いがよく見られている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去されたご家族あるいは入居者との関係は断ち切らないように努力している。入院見舞い、葬儀などにも行っている。退去されたご家族が退去後も事業所を訪問されたりもしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族からの情報収集に努めるとともに、面会時などご家族の気持ちなども汲み取るようにしている。内容は職員が共有できるよう記録している。また、ご本人からの意見・要望をききカンファレンスで取り上げている。検討しケアプランに組み込んでいる。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居後も、ご家族、ご本人からその生活歴、生き方などについて話していただくようにしている。また以前の事業所のケアマネージャーからもご家族了解の上情報を得るなどして情報の充実を図っている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ご本人の生活習慣、考え方など日々把握するように努めている。ご家族もふくめできるだけご本人の状況観察を行い、ご本人から聞くようにしている。日常生活の中では一緒に掃除などの作業を行いながら本人のペースの把握に努めている。レクリエーションも体全体で行うもの、耳、目とするものなど一人ひとりの状況に合わせて行いながら観察している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的支援経過記録を行い(月2回)、チームでモニタリングを行っている。ケアカンファレンスにはご本人、ご家族に可能なかぎり参加していただき意見・要望を聞きながら介護計画を作成している。また、受診先の医師、看護師、理学療法士などからのアドバイスも反映させるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護状況の変化、介護度の変更などあった場合は随時カンファレンスを行い介護計画の変更を行い、ご本人、ご家族の承認をいただいている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の介護記録を行っている。月2回支援計画経過記録を行っており、都度必要があればカンファレンスを行い具体的な介護を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	事業所内の厨房の利用、ホットプレートなどの活用など調理などが出来るよう配慮している。また屋外などのスペースでは畑づくり、花壇作業が出来るよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議を通じて公共機関等への働きかけの協力をいただいている。施設長が地区センターの役員になるなど、地域資源を活用しやすい環境づくりに努力している。ボランティアと共に納涼会に参加したり、学校の音楽会、保育園の運動会や演芸会に参加したりしてきた。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問美容など入居者の要望に応じたサービスの支援を行っている。また訪問診療、訪問歯科などの利用も行っている。福祉用具の検討などの支援も他事業所のケアマネージャーのアドバイスも受けながら行ってきた。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議等において協力関係を持っている。また当地区包括支援センターとの交流があり、介護に関するアドバイス、支援も受けられ体制にある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人、ご家族の希望を最大限尊重しながら、かかりつけ医について話し合いを行っている。希望する医師等に対してはその都度医療情報を提供するだけでなく、職員が同行して適切な医療が受けられるよう支援している。また、必要に応じ専門医の紹介、訪問診療、訪問看護などの利用も行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医への受診の際は出来る限り職員が同行し正確な症状、情報の提供を行うと共に、治療指針や認知症についての助言や指示を得るようにしている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携による看護師と随時連絡が取れる体制になっている。入居者の健康管理を定期的に行っている他、医療相談に応じてもらっている。また事業所内看護職員と介護職員との連携がスムーズに行くよう役割分担を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した時は、入居者の日ごとの様子に関して適宜病院の看護師、介護職員に話していくようにしている。また、医師からも治療状況を家族と共に聞いていくようにしている。退院後の受け入れ態勢に関しても病院側と話し合うようにしている。(過去の入院時は早期退院にはならなかった) 可能な限り職員が病院へ見舞い訪問し、入居者の状況の把握、家族との情報交換を行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合の必要な医療・通院などについて家族とたびたび話し合ってきた。また担当医師とも面談するなどしてきている。 事業所内でも想定される事項とその対応についてユニット会議等で話し合っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化した際のマニュアル作成を行っており、緊急の際の対応も検討している。またご家族とも話し合い対応方法の理解を得るようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>過去に住み替えによるダメージを経験しているため、ご家族からあるいはご本人から今までの生活歴、習慣、生活環境とについての情報を得るようにしている。今後の住み替えの際にその情報を提供できるよう整備している。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個室へ入る際の承諾を得る、個室での介護に関しても本人の尊厳が損なわれることがないように注意している。また個人情報の取り扱いに関しては文書等でその取り扱いを決めるなどしている。ユニット会議などでプライバシー確保についての研修などを行い理解に努めている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個々の力に応じて説明や聞き取りを行っている。ゆっくり待って自己決定できるように働きかけを行っている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>個別の日課を意識しながらケアを行うようにしている。日々の生活において個々の生活習慣が維持されるよう配慮している。理念に基づいて一人ひとりのペースに合わせて過ごしていただいている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>定期的に訪問美容を利用している。訪問美容時は単一な髪型にならないようご本人の好み、希望を聞くようにしている。外出の際はその身なり、服装には注意している。また美容用品などの買い物などの支援を行っている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>下膳、食器洗い、食器の整理、お絞りの準備などそれぞれの能力に合わせて行われている。自主的に行われることが多く間食(おやつ)の調理も熱心に行われている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	甘酒、しるこなど入居者の要望を取り入れ入居者と作ったりされている。他のおやつなどの希望も出ている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	センター方式D-3表などを活用しながら、トイレのリズムを把握し、誘導が必要な方へは定期的な誘導を行っている。またトイレでの排泄に混乱が起きないようにトイレ内の整頓、衛生に配慮している。また、安全にトイレが使用できるよう床の調整、手すりなどの改善を行ってきた。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的には3日に1回の入浴を行っているが、本人の希望の入浴日に入れるよう対応している。入浴に要する時間も本人の希望などに合わせて調整している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活のリズムが狂わないように配慮している。日中であっても必要な方には昼寝なども取っていただいている。夜間の睡眠が十分取れるよう健康管理などに注意している。睡眠のリズムは良好と思われる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事、畑仕事、レクの際もそれぞれの得意なことを生かしながら、一人ひとりが役割分担できるよう配慮しながら行っていただいている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談し可能な方には小額の金銭を所持するようになっている。ご家族の孫など来たときに小遣いとして使用したり、外出時ソフトクリームを購入したりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	出来るだけ事業所の外に出るように心がけている。庭には犬、ウサギなどもおり、また花壇、畑もあるのでそれらのお世話もしていただいている。またドライブを楽しんだり、地域の行事(祭り、保育園など)にも車椅子で出かけたりしている。雪のあるときもドライブをし、冬祭りの氷像、夜景を見、甘酒を楽しまれたりしている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	こまめに外出計画を立て実施している。花見、お祭り、紅葉見物、冬の夜祭など季節感を感じるものへの外出支援を行っている。また一般民家への訪問なども行ってきた。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望時は個室にて電話対応ができるよう配慮している。家族・友人からの電話もあり同じように子機を使用し、プライバシーにも気をつけている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は特に制限していない。また場所に関しても好きなところで面会できるよう配慮している。必ず、飲み物の提供、自室においては人数分の椅子など提供するようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束をしな いケアに取り組んでいる。	全体会議で定期的に身体拘束等の勉強会をおこなっている。また、随時日常のケアが(例えばセンサーの使用)身体拘束に当たらないかを検討している。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、 鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中帯は玄関は施錠していない。また個室に関しても施錠はしていない。個室においては、入居者が中から施錠することがあるが、緊急時は対応できるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員同士声をかけをしながら入居者の安全確認を行っている。夜間は入居者の承諾の元、個室を巡回するなどして安全の確保に努めている。夜間トイレ使用に関しても介助が必要な方には了解を得て部屋に入り安全確保に努めている。夜勤時はホール中央に待機し物音が聞ける状態に対応している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状況により違いますが、義歯洗浄剤、点眼液など保管している。また人によっては義歯を預かったり、歯磨き粉を預かったりしている。使用しないシルバーカーの収納、裁縫箱の預かりも行っている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故・ヒヤリハットの報告用紙を作成し、事故の再発防止に努めている。また想定される事故に対しては日々のユニット会議などで話し合い対応策を決定している。事故発生時は速やかにご家族へ連絡すると共にその記録もとっている。全体会議でも、事故報告とその対応策について話し合うと共に施設内研修も行っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当、避難訓練は実施している。また緊急時の対応については全体会議などでもマニュアルを作るなど話し合っている。食事時の事故、転倒、意識不明などの対応についても会議などで検討されている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時、火災時の救出などに関して、運営推進会議および地域消防団の協力が得られるようになっている。消防訓練、避難訓練を行っている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	一人ひとりに起こりうるリスクの分析に留意しながら、ご家族と定期的に話し合いを行っている。事業所としての対応(手引き歩行、刻み食など)に関して説明させていただいている。最終的には、ご家族の納得を得ながら対応するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食器は手洗い後、食器洗浄機にて処理している。調理用品の消毒は毎日行っている。厨房周辺は不衛生にならないように毎日清掃している。食材の保管も冷所に保管している。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>庭、玄関にはいす、テーブルを置くなどしてくつろいだり、安心して出入りが出来るよう配置している。</p> <p>玄関は間口が大きく、飾り、花等を置くようにしている。スロープも設置している。</p> <p>家庭的な雰囲気が出るよう、日常的なものを設置するようにしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>事業所内の空間の照明、温度、日差しなどに注意している。季節感にあった掲示物とか、花、置物を置いたり、ときには季節に合わせた飾り付けを行っている(クリスマスツリー、ひなまつりなど)。</p> <p>一人でCDを聞けるスペースを確保したり、いつでもカラオケを楽しめるように配慮している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共有空間では、食事を取る場所とくつろぐスペースを別々に設置している。日常の居場所が単調にならないように配慮している。また、個室以外に廊下などにいすを置くなど一人だけで過ごせるスペースを確保している。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>それぞれの入居者のなじみのものを個室に配置している(写真、人形、茶道具、本、仏壇、花など)。また、入居後もご家族、本人の望むものを置いたり、家具、ベッドの位置を変えたりしている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>事業所内の温度、湿度の記録・管理を行っている。また換気も毎日行っている。加湿器の追加、夜間の洗濯物干しなどで湿度が保たれるよう対応している。室温も床暖房にて行っているが随時ボイラー調整を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム和が家 しらかば	評価実施年月日	平成22年2月25日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年2月27日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	開設当初からある理念を見直し、住み慣れた地域で安心した暮らしを、およびご家族も安心できる支援を柱に和が家の理念を作り上げた。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	全体会議やユニット会議など支援の状況を振り返りながら理念に沿った話し合いを行っている。話し合った結果を理念にケアに反映させるよう実施している。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホームページ、和が家新聞などの活用により地域の方々の理解が得られるよう取り組んでいる。また地域の喫茶店、美容室、商店などの協力が得られるよう直接話し合いなどを行っている。さらに運営推進会議においては町内会関係者、民生委員、地域障害者施設関係者、社会福祉協議会さらに地域公共機関の関係者などに参加いただき、和が家の理念が地域に理解されるよう進めている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域の行事に利用者とともに参加し、地域の人とのかかわりを多くしている。また施設への隣近所の人々が立ち寄れるよう庭の整備をするなど環境整備にも努力してきた。さらに、花壇の整備、除雪、屋根の雪下ろしなど近所の方々の協力を得ながら行っている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内祭り、老人会、保育園などの行事に参加しながら地域との交流を図ってきている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域研修会などに参加し、意見交換を行うとともに、地域の商工会、地区センターの役員、町内会およびみこしの会役員などを受け持ちながら和が家と地域の交流を図り地域への貢献を行っている。地域での高齢者の生活相談をうけたり、また包括支援センターと連絡を取りながら地域の認知症高齢者の支援も行ってきた。また、近隣のグループホームとの連携も深めるよう行動している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義について話し合い、サービスの向上について会議などで検討してきた。評価結果について個々の介護の方向性についてその改善を図ってきた。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、各ユニット単位および職種単位での報告を行い、話し合いアドバイスをいただいている。さらに地域からみたグループホームに対する要望など話し合っていたり、介護上のアドバイス、提案などもいただいている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	スプリンクラー設置事業に関して旭川市福祉保険部職員7名が意見交換のため和が家を見学・訪問されている。他市町村からも職員等が和が家への訪問がある。当グループホームでのケアの取り組みについての紹介を行いながら、意見交換などを行ってきた。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する研修にはできるだけ職員が参加できるよう配慮してきた。研修後の報告を行うとともに、全体会議、ユニット会議でも具体的な日常の業務の中で人権の意味が理解できるよう話し合ってきた。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全体会議などで、都度、他施設での虐待事例などについて取り上げ、その周知に努めている。また、何が虐待に相当するかなどに関しても日々話し合うようにしている。(言葉使いなど)		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居申し込み、さらに入居時その契約の内容について文書および口頭で説明を行っている。また、理解しやすいようにその趣旨についても説明している。事業所での介護に対する取り組み、考え方、また介護上のリスク、費用などについても説明している。さらに、退去時に関しても当事業所として出来る事、出来ないことについてもあらかじめ説明するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員は、利用者およびそのご家族の意見、不安、苦情、要望はかならず上司に報告している。 また、その内容に関して運営会議などで対応を検討し、全体会議、ユニット会議にて報告、対応策が示されている。 さらに、運営推進会議、家族会などへの報告も行われるとともに意見あるいは提案などもいただいている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月、入居者の生活状況について文書にて報告している。また、日々状況に応じ電話などにより連絡・相談を受けるようにしている。種々の情報に関してもご家族に提供するようにしている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会が設置されており、家族会独自の活動が行われている。家族会としての意見について話し合う場面を設置している。また個々の家族との話し合いも現場スタッフだけでなく管理者あるいは施設経営者とも行うようにしている。 話し合いの内容は、運営会議、全体会議で報告され具体的な運営方針を決めている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月行うユニット会議で業務などの意見提案がなされている。またその内容に関して全体会議への報告を行い再確認を行っている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	日々の必要な人員の確保調整を一元的に管理している。また、行事、介護状況の変化により都度必要な場合は人員の配置を調整している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	日常的にユニット間の交流を深めるようにしている。職員の移動に関しては混乱等がおきないような体制をとっている。日々の申し送しも2ユニット共同で行うようにし、他ユニットの状況も理解できるようにしている。離職があった際は、当分の間は他職員一緒に行動させるなど入居者へのダメージ・混乱が発生しないように勤めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>新人研修、職員研修の研修計画を作成している。研修後は報告会を行い研修内容の他職員への周知も行っている。事業所外の研修に関しては掲示板に提示するとともに計画的に全職員が参加できるよう勤務調整を行うなど対応している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>近隣の他グループホームとの相互訪問、意見交換を行っている。現在は勉強会の共同開催など計画している。また複数事業所連携研修会においては他事業所との交流を深めるとともにその運営などに関しても積極的に参加している。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>個別面談を定期的に行っている。また個々の相談も直接経営者なども行える体制がある。さらに親睦会の運営に関してもよりよいものになるよう取り組まれている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>個人面談などがこまめに行われている。職員の要望などが比較的早く取り上げられている。ユニット会議、運営会議など打ち合わせが適宜行われている。研修やケアの方向性などについての話し合いも多くもたれるようになっている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>できるだけ本人に面会し、困っていること、要望を聞くように勤めている。また事業所の見学なども含め、サービスについて丁寧に説明するようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前の段階では、家族の求めること、苦勞などよく聞くようにしている。そして入居自体が適切なのか他の選択肢などにもご家族と話し合うようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居予定者およびご家族と時間をかけて話し合いをよくおこない、了解の下、以前利用していた介護事業所、医療機関などからの情報取得も行っている。それぞれのサービスに関してはひとつひとつ確認していくようにしている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	可能な限り、ご本人の事前訪問、見学をお願いしている。また、今までの事業所ケアマネージャー、職員などの協力も得られるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	個々の生活リズムを尊重しながら、ご本人が主体的に生活できるよう配慮している。入居者と職員が対等な立場になれるよう努力している。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者の介護に当たり、かならずご家族の意見を反映させるようにしている。ケアカンファレンスへの出席もしていただくようにし、ご家族からの情報、提案も生かせるようにしている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	事業所行事にできるだけ参加していただくとともに、ご本人の日常の生活状況をご家族が随時把握できるよう毎月の新聞などをふくめ情報提供を行っている。受診の際のご家族同行をお願いしたり、自宅への帰省など家族間の関係が希薄にならないよう配慮している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	美容室や墓参り、年末年始はご自宅への帰省などを可能な限り進め、なじみの関係が途切れないように努力している。また、外出などに関しても、昔の職場関係、よく買い物にいった場所など関連した場所を確認しながら行うようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者が共同で活動する場面では、利用者一人一人が孤立することがないように職員もかかわるようにしている。意思疎通ができるようになり、入居者同士の支え合いがよく見られている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去されたご家族あるいは入居者との関係は断ち切らないように努力している。退去されたご家族が退去後も事業所を訪問されたりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族からの情報収集に努めるとともに、面会時などご家族の気持ちなども汲み取るようにしている。内容は職員が共有できるよう記録している。また、ご本人からの意見・要望をききケアプランなどに記載し取り上げるようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居後も、ご家族、ご本人からその生活歴、生き方などについて話していただくようにしている。また以前の事業所のケアマネージャーからもご家族了解の上情報を適宜得るようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ご本人の生活習慣、考え方など日々把握するように努めている。ご家族もふくめできるだけご本人の状況観察を行い、ご本人から聞くようにしている。また他事業所関係者、認定調査関連等も含め了解のもと把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的に支援経過記録を行い(月2回)、チームでモニタリングを行っている。ケアカンファレンスにはご本人、ご家族に可能なかぎり参加していただき意見・要望を聞きながら介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護状況の変化、介護度の変更などあった場合は随時カンファレンスを行い介護計画の変更を行い、ご本人、ご家族の承認をいただいている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の介護記録を行っている。情報が全職員に伝わるよう配慮している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人の要望・これからの生活(例えば帰宅・退去後)を考えた際必要なことがスムーズにできるようにグループホーム内の設備を利用して支援している(買い物、食事の準備、洗濯物など)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議を通じて公共機関等への働きかけの協力をいただいている。施設長が地区センターの役員になるなど、地域資源を活用しやすい環境づくりに努力している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問美容など入居者の要望に応じたサービスの支援を行っている。また訪問診療、訪問歯科などの利用も行っている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議等において協力関係を持っている。また当地区包括支援センターとの交流があり支援も受けられ体制にある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人、ご家族の希望を最大限尊重しながら、かかりつけ医について話し合いを行っている。希望する医師等に対してはその都度医療情報を提供するだけでなく、職員が同行して適切な医療が受けられるよう支援している。また、必要に応じ専門医の紹介、訪問診療、訪問看護などの利用も行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医への受診の際は出来る限り職員が同行し正確な症状、情報の提供を行うと共に、治療指針や認知症についての助言や指示を得るようにしている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携による看護師と随時連絡が取れる体制になっている。入居者の健康管理を定期的に行っている他、医療相談に応じてもらっている。また看護職員と介護職員との連携がスムーズに行くよう役割分担を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した時は、入居者の日ごころの様子に関して適宜病院の看護師、介護職員に話していくようにしている。また、医師からも治療状況を家族と共に聞いていくようにしている。退院後の受け入れ態勢に関しても病院側と話し合うようにしている。可能な限り職員が病院へ見舞い訪問し、入居者の状況の把握、家族との情報交換を行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末に対する話し合いをご家族とも進めている。また、受診先の担当医師との連絡を密にすると共に、受診の際はご家族と同行し介護の方法、考え方などについてアドバイスを得ている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医師への相談も含め、ご家族と何度も話し合いを継続している。またチームとしての支援体制について取り組んでいるところである。緊急体制に関しても家族などと話し合いながら決めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>過去に住み替えによるダメージを経験しているため、ご家族からあるいはご本人から今までの生活歴、習慣、生活環境とについての情報を得るようにしている。今後の住み替えの際にその情報を提供できるよう整備している。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個室へ入る際の承諾を得る、個室での介護に関しても本人の尊厳が損なわれないよう注意している。また個人情報の取り扱いに関しては文書等でその取り扱いを決めるなどしている。ユニット会議などでプライバシー確保についての研修などを行い理解に努めている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ご本人の意思で生活できるよう、自主的な動きを大切にしている。自分の意思でいろいろなことができるよう環境を整備している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>個別の日課を意識しながらケアを行うようにしている。日々の生活において個々の生活習慣が維持されるよう配慮している。(例えば起床時間、昼寝、食事など)</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>定期的な訪問美容を利用しているが、ときには近隣の美容室へ行ったりもしている。またご家族の協力も得られている。受診などの外出の際の洋服の相談をうけたり、衣服の汚れ、しわなどにも注意している。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事の準備、食材の下準備などを職員とおこなったり、台所仕事行ったりしている。お茶、箸の準備などは入居者が行っている。食事は職員も一緒に同じものを食べている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	間食など本人の要望に応じて提供している。現在は食事・嗜好調査を行いメニューなどに反映させるように対応している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排尿管理表などを活用しながら、トイレ誘導が必要な方へは定期的な誘導を行っている。またトイレでの排泄に混乱が起きないようにトイレ内の整頓、衛生に配慮している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的には週2回以上の入浴を行っているが、本人の希望の入浴日に入れるよう対応している。時には希望により複数の方との入浴も実施している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	集中した睡眠が取れるよう、本人の生活リズムを大切にしている。就寝時間があまり一律にならないよう、また必要以上に早くならないように配慮している。さらに、人により適度に昼寝などもしていただいている。不眠に関してはその状況を観察し、原因を把握するようにし対応を考えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	お茶の準備、洗濯物の整理、食材の準備など一人ひとりの役割があるよう対応している。レクの際もそれぞれの得意なことを生かしながら役割を持っていただいている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談し可能な方には小額の金銭を所持するようになっている。ご家族の孫など来たときに小遣いとして使用したり、外出時菓子を購入したりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	出来るだけ事業所の外に出るように心がけている。庭には犬、ウサギなどもおり、また花壇、畑もあるのでそれらのお世話もしていただいている。またドライブを楽しんだり、地域の行事(祭り、保育園など)にも車椅子で出かけたりしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	こまめに外出計画を立て実施している。花見、お祭り、紅葉見物、冬の夜祭など季節感を感じるものへの外出支援を行っている。また一般民家への訪問なども行ってきた。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望時は個室にて電話対応ができるよう配慮している。家族・友人からの電話もあり同じように子機を使用し、プライバシーにも気をつけている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は特に制限していない。また場所に関しても好きなところで面会できるよう配慮している。さらに大人数で入居者と食事などしたいという要望には別室を提供している。ご家族もよく活用されている。必ず、飲み物の提供、自室においては人数分の椅子など提供するようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束をしな いケアに取り組んでいる。	全体会議で定期的に身体拘束等の勉強会をおこなっている。また、随時日常のケア が(例えばセンサーの使用)身体拘束に当たらないかを検討している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、 鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中帯は玄関は施錠していない。また個室に関しても施錠はしていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員同士声をかけをしながら入居者の安全確認を行っている。夜間は入居者の承諾の元、個室を巡回するなどして安全の確保に努めている。夜間トイレ使用に関しても介助が必要な方には了解を得て部屋に入り安全確保に努めている。夜勤時はホール中央に待機し物音が聞ける状態に対応している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状況により違うが、義歯洗浄剤、点眼液など保管している。また人によっては義歯を預かったり、歯磨き粉を預かったりしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故・ヒヤリハットの報告用紙を作成し、事故の再発防止に努めている。また想定される事故に対しては日々のユニット会議などで話し合い対応策を決定している。事故発生時は速やかにご家族へ連絡すると共にその記録もとっている。全体会議でも、事故報告とその対応策について話し合うと共に施設内研修もやっている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当、避難訓練は実施している。また緊急時の対応については全体会議などでもマニュアルを作るなど話し合っている。食事時の事故、転倒、意識不明などの対応についても会議などで検討されている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議および地域消防団の協力が得られるようになっている。消防訓練、避難訓練を行っている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	一人ひとりに起こりうるリスクの分析に留意しながら、ご家族と定期的に話し合いを行っている。最終的には、ご家族の意向に沿う形で対応するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理用品の消毒は毎日行っている。厨房周辺は不衛生にならないように毎日清掃している。食材の保管も冷所に保管している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	庭、玄関にはいす、テーブルを置くなど安心して出入りが出来るよう配置している。玄関には飾り、花等を置くようにしている。家庭的な雰囲気が出るよう、日常的なものを設置するようにしている。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	事業所内の空間の照明、温度、日差しなどに注意している。季節感にあった掲示物とか、花、置物を置いたり、ときには季節に合わせた飾り付けを行っている(クリスマスツリー、ひなまつりなど)		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	共有空間では、食事を取る場所とくつろぐスペースを別々に設置している。日常の居場所が単調にならないように配慮している。また、個室以外に一人だけで過ごせるスペースを確保している。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	それぞれの入居者のなじみのものを個室に配置している(写真、人形、茶道具、本、仏壇、花など)。また、入居後もご家族、本人の望むものを置いたり、家具、ペットの位置を変えたりしている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	事業所内の温度、湿度の記録・管理を行っている。また換気も毎日行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>事業所内では必要な場所に手すりを設置。個室は、入居者の状況に応じて、ベットまわり、トイレ内部の手すり、床に傾斜をつけるなど工夫している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>判りにくいことなどに関しては、都度職員間で協議し対応している。自室の混乱、居場所の混乱などにはそれとなく目印をつけるなどの対応をしている。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>庭には、花壇、畑などがありまた、犬、ウサギなどの飼育もしている。テーブル、いす、テントを設置し利用していただいている。ユニットごとのサンデッキも活用している。</p> <p>玄関にはスロープ、手すりを設置し車椅子でも自力で出入りできるよう配慮している。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)